

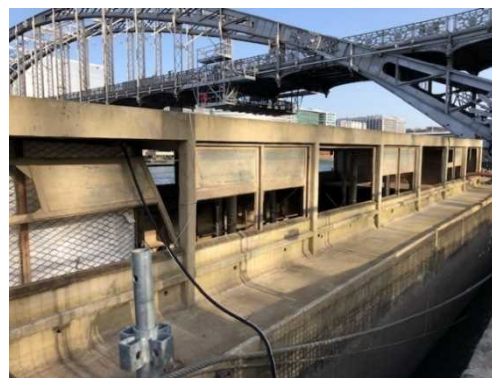
48 アジール・フロタン復活プロジェクト（2021年4月15日）

前回、ル・コルビュジエ（1887-1965）の作品の世界遺産登録を通じた日仏両国の文化協力を取り上げました。今回は、現在進行中の「アジール・フロタン復活プロジェクト」(<https://www.asileflottant.net/>)をご紹介します。

アジール・フロタン (Asile Flottant)（「浮かぶ避難所」の意味）とは、1918年に終結した第一次世界大戦の影響でパリ市内に多くいた難民の避難所とするために、石炭船リエージュ号を改修した難民避難船のことです。1929年に救世軍（キリスト教プロテスタント系の慈善団体）がル・コルビュジエにコンクリート船の改修を依頼し、当時パリのル・コルビュジエの事務所で働いていた前川國男が担当しました。世界恐慌や第二次世界大戦時も多くの難民を受け入れましたが、1990年代にその役目を終えました。

パリのオーステルリッツ駅近くのセーヌ川に係留されている船は、2006年に地元のフランス人が船を買い取ったことから、保存に向けた活動が始まり、2008年に歴史的文化財に指定されました。その後、リーマンショックの影響で保存計画が停滞したものの、船を整備して活用していくための準備が進められました。しかし、不運なことに2018年2月にセーヌ川の増水によって、船は水没してしまいました。

それでも、関係者のアジール・フロタン復活への篤い思いは、途切れることはありませんでした。黄色いベスト運動（注：2018年11月から断続的に行われているフランス政府への抗議デモ）や新型コロナウイルスといった度重なる困難に見舞われたものの、このプロジェクトを主導する一般社団法人日本建築設計学会は、公益財団法人国際文化会館から助成金を得て、2020年10月19日に船体の引き上げに成功しました。



現在行われているフランスの文化財専門家による船体の調査が終われば、修復が行われる予定です。ル・コルビュジエによるオリジナルのデザインを復元し、2023年に文化施設として生まれ変わることを目指して準備が進められています。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

